

# ワシントン条約第18回締約国会議報告

ワシントン条約締約国会議が2019年8月17～28日、スイス・ジュネーブのパレエキスポにて開催された。5月にスリランカで開催する予定で準備が進められていたが、4月21日の同時爆発事件で延期となり、8月にスイスでの開催となった。今号と次号の『JWCS通信』にて会議の報告を行う。

## 附属書改正提案

真田 康弘（早稲田大学地域・地域間研究機構 研究院）

2019年8月、第18回ワシントン条約(Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora: CITES)締約国会議がジュネーブで開催された。最終本会議の締めくくりに発言で事務局長より「海産種の附属書Ⅱ掲載を通じて、海産資源の持続可能な利用が図られる」と発言するなど、今回はクロナマコやアオザメ等海産種の附属書Ⅱ掲載提案が全て採択されるとともに、多数の動植物が附属書に掲載され、環境NGO等多くの参加者から会議の成功を歓迎するコメントが最終本会議で相次いで述べられるなど、大きな成果を残したと言える。また、保護管理対策の成功からネズミ4種、鳥類2種が附属書ⅠからⅡへの格下げがコンセンサスで採択、ワシ

ントン条約が必ずしも規制強化一辺倒のものではないことも改めて示された。

提案の多くはコンセンサスによって採択されたが、コンセンサスが成立しなかったものについては採決に付され、3分の2の多数を超えたものは採択されている。以下、投票行動のわからない秘密投票ではなく通常投票となった全ての動物・植物附属書掲載提案、及び、全てが秘密投票となった海産種附属書掲載提案について、科学的観点から提案に対する分析と勧告を行っている①FAO専門家パネル(商業的に利用される水産種のみ提案分析)、②条約事務局、③IUCN/TRAFFIC、④TRAFFIC単独と、日本、中国、韓国、米国、EUの投票態度を表にしてみた。

提案内容	FAO	CITES事務局	IUCN/TRAFFIC	TRAFFIC	可否	日本	中国	韓国	米国	EU
北インドローズウッド：附属書Ⅱから削除		反対	附属書掲載基準を満たしている	反対	否決	賛成	賛成	反対	反対	反対
キリン：附属書Ⅱ掲載		反対	基準を満たすか不明確*1	反対	可決	反対	反対	賛成	賛成	賛成
アフリカゾウ：ザンビア個体 附属書Ⅱへ格下げ		反対	格下げに必要な措置満たさず	反対	否決	賛成	棄権	反対	反対	反対
アフリカゾウ：南アと南部アフリカ個体群 附属書Ⅰへ格上げ		反対	基準満たさず	反対	否決	反対	賛成	反対	反対	反対
アオザメ：附属書Ⅱ掲載	基準不適合	反対	基準満たす	賛成	可決	反対	反対	不明	反対	提案国
ギターフィッシュ(サメの一種)： 附属書Ⅱ掲載	判断できない*2	賛成	基準満たす	賛成	可決	反対	秘密投票支持	不明	賛成	提案国
ウェッジフィッシュ(サメの一種)： 附属書Ⅱ掲載	判断できない*3	賛成	基準満たす	賛成	可決	反対	不明	不明	賛成	提案国
クロナマコ：附属書Ⅱ掲載	1種適合*4	賛成	基準満たす	賛成	可決	反対	反対	不明	提案国	提案国
コツメカワウソ：附属書Ⅰへ格上げ		反対	基準を満たすか不明確	賛成	可決	反対	反対	賛成	賛成	賛成
ピロードカワウソ：附属書Ⅰへ格上げ		反対	基準を満たすか不明確	賛成	可決	反対	反対	賛成	賛成	賛成
トッケイヤモリ：附属書Ⅱ掲載		反対	基準適合	賛成	可決	反対	反対	反対	提案国	提案国
パンケーキガメ：附属書Ⅰへ格上げ		賛成	基準適合	賛成	可決	棄権	賛成	賛成	提案国	賛成
グラスフロッグ：附属書Ⅱ掲載		反対	基準不適合	反対	否決	賛成	棄権	賛成	賛成	反対

【ワシントン条約第18回締約国会議、提案分析と日本の投票行動】



提案内容	可否	日本	中国	韓国	米国	EU
北インドローズウッド：附属書IIから削除	否決	賛成	賛成	反対	反対	反対
キリン：附属書II掲載	可決	反対	反対	賛成	賛成	賛成
アフリカゾウ：ザンビア個体 附属書IIへ格下げ	否決	賛成	棄権	反対	反対	反対
アフリカゾウ：南アと南部アフリカ個体群 附属書Iへ格上げ	否決	反対	賛成	反対	反対	反対
アオザメ：附属書II掲載	可決	反対	反対	不明	反対	提案国
ギターフィッシュ（サメの一種）： 附属書II掲載	可決	反対	秘密投票 支持	不明	賛成	提案国
ウェッジフィッシュ（サメの一種）： 附属書II掲載	可決	反対	不明	不明	賛成	提案国
クロナマコ：附属書II掲載	可決	反対	反対	不明	提案国	提案国
コツメカワウソ：附属書Iへ格上げ	可決	反対	反対	賛成	賛成	賛成
ピロードカワウソ：附属書Iへ格上げ	可決	反対	反対	賛成	賛成	賛成
トッケイヤモリ：附属書II掲載	可決	反対	反対	反対	提案国	提案国
パンケーキガメ：附属書Iへ格上げ	可決	棄権	賛成	賛成	提案国	賛成
グラスフロッグ：附属書II掲載	否決	賛成	棄権	賛成	賛成	反対

【ワシントン条約第18回締約国会議、各国の投票行動】

一目瞭然だが、日本は附属書掲載にはできる限り反対し、附属書からの削除や格下げにはできる限り賛成する投票行動を取っていることがわかる。EU、米国はもとより、中国よりも後ろ向きな態度と言えよう（中国は今回オナガギジ、イボイモリ等計5つの附属書II掲載提案を行い、条約に協力的な態度を示した）。

日本は締約国会議で「附属書掲載提案は科学的根拠に基づき、海産種については専門的知見を持つFAOの勧告を尊重すべきだ」と繰り返し発言してきた。ところが投票態度を見てみると、そのFAO専門家パネルが判断を留保している（但し附属書掲載の利点を留意するよう勧告）サメ・エイ提案はもとより、掲載を妥当としているナマコにすら反対していることがわかる。なお、附属書掲載提案に慎重な姿勢を示すFAO専門家パネルと対照的に、今回はIUCNがサメ・エイ提案で発言を求め、FAO専門家パネルの評価以降に判明した新たな科学的知見を踏まえたとし、附属書掲載基準を満たしていると提案採択を強く推していたのが印象的だった。

日本の投票態度についてさらに見てみると、条約事務局、IUCN / TRAFFIC、TRAFFIC単独の提案分析のいずれもが掲載賛成の分析・勧告をしているパンケーキガメの附属書IIからIへの格上げ提案に棄権したのみならず、条約事務局、IUCN / TRAFFIC、TRAFFIC単独の提案分析でいずれも掲載提案反対が勧告されたグラスフロッグの附属書II掲載提案、及び条約事務局、IUCN / TRAFFIC、TRAFFIC単独の提案分析でいずれも附属書からの削除は適切でないで附属書削除提案には反対だと勧告したと北インドローズウッドの附属書II削除提案のい

注：白地は附属書掲載・格上げに賛成もしくは格下げ・削除に反対する立場、太枠は掲載・格上げに反対もしくは格下げ・削除に賛成する立場を示す。

\*1 IUCN / TRAFFIC提案分析では、キリンの附属書II掲載を通じた国際取引の規制が種の存続に対する主たる脅威を解決しないとする一方、IUCNキリン専門家グループの一部科学者より掲載が強く主張されるなど、IUCN内で意見が分裂。

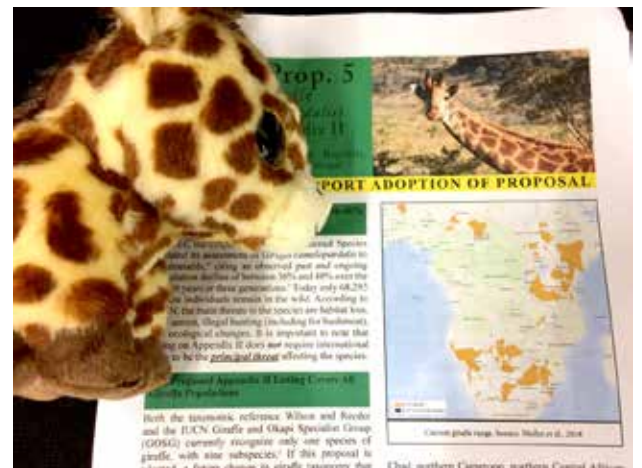
\*2 ギターフィッシュの附属書II掲載提案が掲載基準を満たすか否か判断がつかねるとする一方、当該種が附属書に掲載するか否かを締約国が検討するに際し、地中海北西部での資源が絶滅したこと、広範な地域において管理措置が存在していないこと、及び当該種のヒレが国際取引において極めて高い価値を有していることに留意することを勧告。

\*3 ウェッジフィッシュの附属書II掲載提案が掲載基準を満たすか否か判断がつかねるとする一方、附属書II掲載を検討するに際し、広範な地域で管理がなされないままに漁獲が行われていること、及び国際取引でヒレが高い価値を有していることに締約国が留意することを勧告。

\*4 附属書II掲載提案されたクロナマコ等3種のうち、1種は掲載基準を満たし、1種は基準を満たさず、残りの1種は不明としつつ、1種が掲載される場合は残りの2種は類似して見分けがつかないため一括掲載を勧告。

ずれについても、こうした科学的・専門的な立場からの勧告に反して賛成票を投じている。これでは「科学的知見に即して行動すべきだ」との主張と実際の行動が矛盾していると言えよう（グラスフロッグについては、ワシントン条約での海産種提案や国際捕鯨委員会（IWC）で日本の立場を強く支持してきたアンティグア・バーブーダやセントクリストファーネイビスが提案支持側に回ったことが賛成の要因ではないかと推測される）。「二枚舌」と言われても仕方がない。

実際、主張と行動の矛盾が明らかな日本はワシントン条約では「与しやすい悪役」のような立場に立たされており、環境NGOからの評価も低い。近視眼的で、大局的な我が国の国益を損なっていると見えよう。ワシントン条約に対する我が国の姿勢の根本的な再検討が必要と考えられる。



キリンの附属書II掲載提案を説明するNGOの資料